

保護司会だより 第42号

習志野八千代地区保護司会

広報部

着任にあたって



千葉保護観察所長

岸 規子

今春の異動により、さいたま保護観察所から転任してまいりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

習志野八千代地区保護司会の皆様におかれましては、更生保護活動に多大な御尽力を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、更生保護の活動には依然として多くの困難が生じていますが、こうした中、感染防止にも御配慮いただきながら、一人ひとりの立ち直りや、犯罪や非行のない明るい地域社会づくりのため御尽力を賜っておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

更生保護活動に御理解、御協力をいただきありがとうございます習志野市、八千代市をはじめ関係機関・団体の皆様にも、紙面をお借りし、厚く御礼申し上げます。

コロナウイルスの影響が続き、社会的孤立など社会における様々な生きづらさの問題の深刻化も懸念される状況にあつて、支え合う地域社会づくりに取り組む更生保護には、ますます大きな期待が寄せられているように思います。あわせて、複雑多様化する社会課題を前にして、更生保護のネットワークを更に広げていくことの大切さも感じています。

ところで、本年一月、再犯の防止等の推進に関する法律に基づく千葉県再犯防止推進計画が策定されました。再犯防止は、安全で安心して暮らせる社会の実現に向けた取組であり、誰一人取り残さない地域社会づくりにつながるものです。

当庁といたしましたもこの機会に改めて、多くの方々に再犯防止推進法の趣旨・理念や更生保護活動について御理解いただけるよう広報の充実に努めるとともに、地方公共団体をはじめ地域の多様な分野の機関・団体の皆様との連携協力のもと、犯罪や非行をした人たちの社会復帰、再犯防止に向けた取組を進めてまいれる所存です。

引き続き、皆様の御理解、御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会長あいさし



習志野八千代地区保護司会会長

鈴木 和弘

この度、習志野八千代地区保護司会会長にご推挙頂き就任いたしました鈴木でございます。風間前会長並びに歴代会長が築かれましたご功績をしっかりと受け継ぎ、自らの役割と責任を全うすべく努力をいたす所存でございます。

保護司会会員の皆様には、日頃より更生保護活動に深いご理解をいただき、さまざまな活動を通して保護司の役割を果たして頂いておりますことに心から敬意を表します。また、関係機関、団体、地域の皆様には私たちの活動に対し格別なるご協力ご指導を賜り深く感謝申し上げます。

さて新型コロナウイルスによる感染拡大は、私たちの生活にさまざまな形で制約が求められました。保護観察においても影響は大きく、例えば対象者との面接は対面ではなく多くが非接触で行われたり、各種事業や更生保護活動が中止や一定の制限を受けたりとの状況が続きましたが、徐々に制限も解除され面接や定例研修なども行われるようになり、今年度の「社会を明るくする運動」支部大会も実施されました。今後も行事を通して社会を明るくする運動と犯罪予防活動に取り組んで進めたいと思います。

保護司一人一人が、定例研修や、諸行事に参加し、お互いに切磋琢磨し習志野八千代地区保護司会を活性化させていけたら幸いです。

最後に社会情勢に対応した保護観察や更生保護活動により、犯罪や非行のない地域社会を築くため取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第72回「社会を明るくする運動」実施報告

この運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

習志野支部

習志野支部大会は、7月6日、プラッツ習志野市民ホールにおいて、社会を明るくする運動作文コンテスト県知事賞を受賞された第一中学校の織戸亮輔さんの作文朗読、「ユニバーサルデザインでつながるだれも取り残さない世界へ」と題した松森果林先生の講演会、地域へ戻ってきた少年に対する保護司や地域の見守りを描いたショートムービー上映の3つをコンテンツとして開催いたしました。

各推進団体のメンバーや一般参加の市民の皆さん206人がご参加下さり、90%以上の皆さんから「大変参考になった」という評価をいただくことができました。

多くの市民の方が、シンボルマークの黄色い何かを身に着けてご参加下さったことに大きな意義を感じた大会になりました。



プラッツ習志野にて

犯罪予防活動部会 眞殿弘一

八千代支部

八千代支部大会は、7月9日午後1時30分～4時15分、八千代市市民会館小ホールに於いて来場者229名のコロナ対策に安全を期して開催しました。

式典では、千葉保護観察所長・岸規子氏のご挨拶をも頂きました。

講演会は、講師として社会福祉法人翠燿会・常務理事の津川康二氏により『子ども支援の現状と課題』として、ご講演を頂きました。

氏の解りやすく熱い語らいと、その実情と対応に深く感銘を受けました。

演奏会は、八千代市立高津中学校吹奏楽部69名による迫力満点の手拍子あり振付ありの演奏で、会場が一体となり、懐かしい「昭和メドレー」に癒やされたひと時でした。



八千代市市民会館小ホール(保護司会と更女会の協力)

広報部 須堯福美



千葉保護観察所長・岸 規子氏



高津中学校吹奏楽部～躍動感にあふれる演奏

講演を聴いて

◆演題…ユニバーサルデザインでつなぐ

だれも取り残さない社会へ

◆講師…ユニバーサルデザインアドバイザー
松森 果林 氏

講演に先立って昨年の作文コンテストで県知事賞を受賞した第一中学校の織戸亮輔さんの作文「明るい社会への第二步」が朗読されました。ご家族の病気のことや、デイズニールランドにおけるバリアフリー、ユニバーサルデザイン等の取組みを紹介しながら、差別や偏見をなくすことが明るい社会を作る第一歩につながるという内容で、大人として言葉の重みを考えさせられる素晴らしい作文でした。

講演会では、織戸さんの作文の内容を引き継ぐ形で、差別や偏見をなくすためには、自分とは違った他者を知ること、そして自分の中にある差別意識や偏見に気づいていくことが必要だというお話を、手話と音声言語とパワーポイントの映像とで分かりやすく伝えてもらいました。

〇〇だからできないのではなく、〇〇だからこそできる、と視点を変えれば価値観が変わるということが聴いていた皆の心に強く残った講演会でした。



第一中・織戸 亮輔君



松森 果林氏

習志野支部 眞殿 弘一

◆演題…こども支援の現状と課題

◆講師…社会福祉法人 翠燿会

常務理事 津川 康二 氏

子供は権利の主体であり、守られるべき存在です。しかし全ての子供の育ちが保障されていると言えないのが現実です。

このような現状の中、高齢者福祉に長年携わっていた翠燿会が、共生の理念の下こども支援を始められ、「こども食堂」「グリーンヒルキッズ」「若葉ハウス」そして「GKジュニア」と運営を拡大。人格を形成する上で重要な、幼児期から青年期の子供達に対し、必要な「物理的支援」だけでなく、「心の支援」を大切にされていることに、詠嘆致しました。

さらに若葉ハウスでは、人の心の土台となる信頼や愛情を親代わりとして育み、その後も子供たちが様々な困難を乗り越えていける「生活力」を身に着けることを目指されていることは、真に将来に活きる支援であると思えました。

子供に優しい地域を作る為に、行政、専門家、企業そして自分も含めた市民が、子供を中心に繋がる重要性を改めて感じる、示唆に富む素晴らしい講演でした。



常務理事 津川 康二氏

八千代支部 立崎 晴司

着任にあたって



保護観察官

石川 正志

本年4月から習志野八千代地区の主任官として担当させていただいております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。担当後早くも半年近くになろうとしておりますが、この間私が臨時採用の身分のため何かと御迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

さて、保護司の先生方におかれましては、3年になろうとしているコロナ禍にもかかわらず、日夜保護観察対象者の改善更生を主とした保護司活動に御尽力いただいておりますことに、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

また、常日頃より、習志野、八千代両市の関係機関、団体の方々には更生保護活動に御理解、御支援を賜り誠にありがとうございます。

わが国では、少子高齢化また人口減少に伴い、犯罪非行件数は平成半ばをピークに減少の一途をたどっておりますが、指摘されているとおり、再犯者、再非行少年による、犯罪非行の比率が高くなっております。その対策の一環として、保護観察対象者に対する処遇の効果をより高めるべく種々の施策が導入されつつありますので、引き続き御理解、御支援をお願い申し上げます。

地区内学校紹介コーナー⑩

令和4年4月千葉県内3校目の 義務教育学校が開校



八千代市立阿蘇米本学園

校長 嶺 岸 秀 一

本校は今年度、阿蘇小学校・米本小学校・米本南小学校・阿蘇中学校の4校を統合し、八千代市立阿蘇米本学園として開校しました。今回は、現在本校で挑戦している取組の一部を紹介します。

1. 「あそよな」ならではの異学年交流

1年生から9年生の児童・生徒が同じ校舎で過ごしていることを生かし、数々の交流を行っています。入学式では、8・9年生が新1年生と一緒にリボンをもって、入退場をしました。運動会では、5～9年生の児童・生徒が力を合わせて、長縄跳びやリレーなどの競技を行いました。さらに、毎日清掃を一緒に行ったり、昼休みに一緒に遊んだりもしています。

2. 「あそよな」ならではの学習指導及び部活動指導

本校では、後期課程（中学校）の教員が前期課程（小学校）の児童を指導する授業や理科や算数、英語等の専科教員による授業など、様々な形の授業を展開しています。1・2年生は音楽と体育、英語で、3・4年生は算数・理科・体育、図工・英語で、5・6年生は国語と算数以外の

教科で特色ある授業を行っています。また、後期課程の部活動指導を前期課程の教員が指導している部もあります。このように、前・後期の教職員がワンチームになって学習指導・部活動指導を行っています。

統合したばかりの本校には、成果と共に課題もあります。しかし、これまでの概念にとらわれずに、子どもたちや保護者、地域の方から愛される学校になるようチャレンジしていきます。

（副校長 種村 保）



新任のあいさつ



千葉 総一郎（八千代）

本年7月に保護司を委嘱され、みなさまのお仲間に加えていただけることとなりました。

立ち直りたいと思う方々が、自分の暮らす地域を少しでも好きだと思えるように寄り添い、地域が明るくなることに貢献できればと思っておりますが、更生保護の知識や経験に乏しく、不安な気持ちでいっぱいです。どうぞよろしくご指導を賜りますようお願いいたします。

編集後記

早い梅雨明けの後の7月に入ると、急激な暑さと戻り梅雨とのことで、不安定な日々が全国で発生し、各地で大きな被害を受けております。

一時、減少傾向のコロナウイルス感染が急上昇し、一日20万人を超える状況にもなってきました。そんなおり、安倍晋三元総理が銃撃に会い死亡するという、ショッキングな事件がおきました。過去にない理不尽な犯行ではないでしょうか。

我々保護司においても、同様なことが起きる要素が多々あるのではないかと思います。日々の対応等には十分な配慮にて行動をしておりますが、再度気を引き締めこれからの保護司活動に努めたいと思っております。

（広報部 渡邊 明）